

書き込み年表 advanced ④、中国史概観、古代中国(黄河文明～戦国時代まで)

中国史を見る3つの視点

- ①黄河中流域に邑(ゆう)の出現(黄河文明) → 血縁(氏族)を中心とする集団 → 独自の封建制度
- ②中央政府と地方の豪族との関係 → 行政機構、人材登用に影響
- ③北方、西方の遊牧民の脅威 → 攻撃、または懐柔 → 朝貢による同盟、服属関係

歴代王朝の移り変わり 3つの期間に分ける

- ①黎明期(王朝を作る時代)
 - ・矛盾した制度の修正(行政組織、人材登用、税制、軍事など)・文化、宗教の融合(漢人以外の王朝の場合)
- ②全盛期
 - ・統治が安定し国力充実 ・対外進出盛んに(遊牧民国家を攻撃し、服属させる)
 - ・背後で体制の矛盾が噴出、財政悪化
- ③衰退期
 - ・王族、外戚、官僚(あるいは宦官)、軍人などの権力争いが勃発
 - ・遊牧民国家の侵入活発に
 - ある国と連携し、敵国を攻撃する 遊牧国家に服属(貢納を課される)
 - ・重税に反発する農民の反乱、地方の豪族・軍人の離反

前 6000	黄河文明(黄河中下流域) 粟(あわ)、黍(きび)などの畑作農業																					
5000	<table border="0"> <tr> <td>仰韶文化(前5000頃～3000頃) 磨製石器、彩陶の使用</td> <td>長江文明 稲作農業中心</td> </tr> <tr> <td>崑山文化(前2500頃～2000頃) 黒陶の使用、農具の進歩</td> <td>河姆渡文化(前5000～前3300) 良渚文化(前3300～前2200) 三星堆遺跡(前2000頃)</td> </tr> </table>	仰韶文化(前5000頃～3000頃) 磨製石器、彩陶の使用	長江文明 稲作農業中心	崑山文化(前2500頃～2000頃) 黒陶の使用、農具の進歩	河姆渡文化(前5000～前3300) 良渚文化(前3300～前2200) 三星堆遺跡(前2000頃)																	
仰韶文化(前5000頃～3000頃) 磨製石器、彩陶の使用	長江文明 稲作農業中心																					
崑山文化(前2500頃～2000頃) 黒陶の使用、農具の進歩	河姆渡文化(前5000～前3300) 良渚文化(前3300～前2200) 三星堆遺跡(前2000頃)																					
2000	邑(ゆう、集落、都市)の出現 青銅器の使用始まる、初期王朝出現 二里头遺跡(前2000～前1500頃) 「史記」にある最初の王朝夏(か)の可能性？																					
1600	殷王朝成立(都: 殷墟) 大邑(だいゆう)の一つ、大邑が中小の邑を従える 甲骨文字、殉葬、青銅器の使用 亀甲、獣骨の発見 占いの結果を見て将来を決める 神権政治(祭政一致)																					
1000	周の武王、牧野の戦いで殷の紂王を討つ(前1027?) 周王朝(西周、都: 鎬京) 封建制度(血縁中心、ヨーロッパや日本は契約による主従関係) 周王の一族や、功臣(主君に忠誠を示し、また戦で成果を挙げたりした異姓の家臣)に領地(封土)を与える 諸侯(封土を与えられた家臣)は王に貢納(税)と軍役(戦時に軍を差し出す)の義務を負う 主君(王)、諸侯の下に卿、大夫、士などの家臣 12代幽王、犬じゅうの侵入により東の洛邑(洛陽)に遷都(前770?、以後東周と呼ぶ) 周の統治有名無実化 春秋時代(前770?～403) 春秋の五覇 齊、晋、楚、越、呉(齊の桓公、晋の文公、他の国は諸説あり) 有力諸侯が支配を強める 封建制度の統制弱まる 「尊王攘夷」「周王を尊び、異民族を討つ」 形式的には周王の諸侯が同盟、という立場																					
500	晋が韓、魏、趙の3国に分裂(前403、戦国時代へ) 戦国時代(前403～前221) 戦国の七雄 齊、楚、秦、燕、韓、魏、趙 下剋上 諸侯が公然と王を名乗り群雄割拠 ← 封建制崩壊 ← 実力主義の時代へ 邑の連合から領土国家へ それぞれが独自に開拓、灌漑、治水(洪水対策)を行う ↑ 富国策 産業を興し国力を増す																					
	春秋から戦国へ、体制の変化 鉄製農具、牛耕の普及 牛に鉄製の鋤(すき)を引かせて耕す → 耕地の拡大 青銅貨幣 刀銭、布銭、蟻鼻銭、環銭 大土地所有、商業の発達(余剰農作物を市場で売る) 諸子百家の出現 古い体制への懐疑、国を回り統治のあり方を説く																					
	<table border="1"> <tr> <td>儒家</td> <td>孔子</td> <td>家族の道徳を強調、礼(家族のけじめ)、仁(家族愛)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>孟子</td> <td>「仁」を強調、易姓革命説(徳のあるものに天下が移る)、性善説</td> </tr> <tr> <td></td> <td>荀子</td> <td>性悪説、「礼」を強調、後の法家(韓非)に影響</td> </tr> <tr> <td>道家</td> <td>老子</td> <td>「無為自然」を強調、孔子の仁や礼は人為的、「道」に従え</td> </tr> <tr> <td></td> <td>荘子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>墨家</td> <td>墨子</td> <td>孔子の仁(家族愛)は差別的、無差別平等に愛せ(兼愛)、侵略戦争を否定(非攻)</td> </tr> <tr> <td>法家</td> <td>韓非</td> <td>荀子に学ぶ、法や刑罰で国を治めよ(法治主義)</td> </tr> </table>	儒家	孔子	家族の道徳を強調、礼(家族のけじめ)、仁(家族愛)		孟子	「仁」を強調、易姓革命説(徳のあるものに天下が移る)、性善説		荀子	性悪説、「礼」を強調、後の法家(韓非)に影響	道家	老子	「無為自然」を強調、孔子の仁や礼は人為的、「道」に従え		荘子		墨家	墨子	孔子の仁(家族愛)は差別的、無差別平等に愛せ(兼愛)、侵略戦争を否定(非攻)	法家	韓非	荀子に学ぶ、法や刑罰で国を治めよ(法治主義)
儒家	孔子	家族の道徳を強調、礼(家族のけじめ)、仁(家族愛)																				
	孟子	「仁」を強調、易姓革命説(徳のあるものに天下が移る)、性善説																				
	荀子	性悪説、「礼」を強調、後の法家(韓非)に影響																				
道家	老子	「無為自然」を強調、孔子の仁や礼は人為的、「道」に従え																				
	荘子																					
墨家	墨子	孔子の仁(家族愛)は差別的、無差別平等に愛せ(兼愛)、侵略戦争を否定(非攻)																				
法家	韓非	荀子に学ぶ、法や刑罰で国を治めよ(法治主義)																				